

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 20 年 2 月 14 日 (2008.2.14)

【公開番号】特開 2007-80751 (P2007-80751A)
 【公開日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-012
 【出願番号】特願 2005-269376 (P2005-269376)
 【国際特許分類】

H 0 5 B 6/12 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B	6/12	3 1 4
H 0 5 B	6/12	3 2 3
H 0 5 B	6/12	3 2 4
H 0 5 B	6/12	3 3 4

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 11 月 21 日 (2007.11.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

直流電圧を出力する電源手段と、前記電源手段を経由して共振コンデンサと加熱コイルからなる直列共振回路に高周波電流を流し前記加熱コイル近傍に配置された被加熱金属体に渦電流を生じさせ加熱するインバータ回路と、前記電源手段の入力電流を検出する入力電流検出手段と、前記直列共振回路に流れる電流を検出するインバータ電流検出手段と、前記入力電流検出手段およびインバータ電流検出手段の入力から負荷の状態を検出する負荷状態検出手段と、前記電源手段の入力電圧を検出する電圧検出手段と、少なくとも前記電源手段の出力電圧および前記インバータ回路を制御する制御手段とを備え、前記インバータ回路は前記直列共振回路に対してハーフブリッジ構成またはフルブリッジ構成に切替え可能な構成とし、前記制御手段は、前記負荷状態検出手段の出力と被加熱金属体に投入する設定電力により前記インバータ回路をハーフブリッジ構成またはフルブリッジ構成に切替え動作させるものであって、通電開始時は、前記インバータ回路の構成としてハーフブリッジ構成を選択することを特徴とする誘導加熱調理器。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 3】

本発明は上記の問題を解決するためになされたものであり、直流電圧を出力する電源手段と、前記電源手段を経由して共振コンデンサと加熱コイルからなる直列共振回路に高周波電流を流し、前記加熱コイル近傍に配置された被加熱金属体に渦電流を生じさせ加熱するインバータ回路と、前記電源手段の入力電流を検出する入力電流検出手段と、前記直列共振回路に流れる電流を検出するインバータ電流検出手段と、前記入力電流検出手段およびインバータ電流検出手段の入力から負荷の状態を検出する負荷状態検出手段と、前記電源手段の入力電圧を検出する電圧検出手段と、少なくとも前記電源手段の出力電圧および

前記インバータ回路を制御する制御手段とを備え、前記インバータ回路は前記直列共振回路に対してハーフブリッジ構成またはフルブリッジ構成に切替え可能な構成とし、前記制御手段は、前記負荷状態検出手段の出力と被加熱金属体に投入する設定電力により前記インバータ回路をハーフブリッジ構成またはフルブリッジ構成に切替え動作させるものであって、通電開始時は、前記インバータ回路の構成としてハーフブリッジ構成を選択する。